

## 事業効果検証のためのモニタリング調査について

森林環境税を活用して実施している森林整備について、事業実施の効果を検証するために県内の14箇所（荒廃森林再生事業12箇所、広葉樹の森づくり推進事業2箇所）においてモニタリング調査を行っています。

荒廃した人工林の針広混交林化の過程や、植栽した広葉樹の生育状況を検証する調査のため、今後も継続して調査を行います。

ここに、事業実施後4または5年が経過した時点での状況を報告します。

### 荒廃森林再生事業(間伐)

- 全体的に植被率が増加し、地面が植物に覆われる傾向が見られています。木本種数は減少している箇所もあるものの一定傾向にあることや増加している箇所もあることから、針広混交林化に向けて推移していることが伺われます。

○光環境調査では、開空度（森林内で樹冠方向を撮影した写真の中で、空が見える部分の面積割合）が、今年度は3箇所で減少しました。これは、間伐時に残された樹木が成長したことにより林内へ光が入る空間が昨年度よりも狭まったことによるものと考えられます。

○植生・更新調査では、植被率（地面を植物が覆っている面積割合）が増加した箇所が8箇所にのびりました。また、発生木本種数も7箇所が増加しました。双方の数値には、箇所ごとに大きな違いがみられました。

○土壌移動量調査では、1箇所を除き、昨年度より土砂の移動量が減少しました。なお、土砂の移動量が大きい箇所は、急傾斜地に多い傾向が見られました。

### 広葉樹の森づくり推進事業(植栽)

- 植栽木はシカによる食害防止ネットの破損等も確認されましたが、概ね順調に生育しています。

○活着率は80%前後を保っています。

○根元径、樹高とも順調に増加しています。

○一部食害防止ネットの破損について確認されましたが、補修等行うことで有効に機能しています。

箇所ごとの詳細な調査の状況については、資料4-1で報告します。

また、里山再生事業については、事業の効果を定量的に示すことが困難なことから、実施箇所周辺にお住まいの方を対象にアンケートを行い、満足度調査を行っています。詳細は資料4-2で報告します。